

第2次伊那市総合計画 基本構想(原案)に対する意見整理表(総合計画審議会)

資料No.1-1

【基本構想】

整理番号	修正前の頁	箇所	意見の概要	修正前	修正後	事務局(担当部局)の考え方
1	—	全体	平成31年5月に改元が予定されている。過去の事象を振り返る場合、和暦では何年前のことか分かり難いため、全て西暦へ統一することを提案する。			●2018年(または年度)12月31日より「過去」の表記については、西暦+(和暦)へ統一します。 【例】2006年度(平成18年度)、2018年(平成30年)など ●2019年(または年度)1月1日より「未来(将来)」の表記については、西暦へ統一します。 【例】2019年度、2027年など
2	P4	I 序論 第2章 本市の姿 第1節 本市の自然と地理	「首都圏及び中京圏から等距離にあり、位置的に恵まれている」とあるが、外から見た伊那市は、位置的に「恵まれている」とは言い難い。	首都圏及び中京圏からもほぼ等距離にある位置的に恵まれた地域です。	首都圏及び中京圏から、ほぼ等距離に位置しています。	客観的事実について言及内容へ修正します。
3	P9	I 序論 第3章 計画策定の背景 第1節 本市を取り巻く時代の潮流 第1項 人口減少・・・	少子高齢化により、生産年齢人口が減少することが、一番の問題であるため、第1項で言及すべき。	こうした人口減少や少子高齢化の進行により、地域経済の縮小、税収の減少、	こうした人口減少や少子高齢化の進行により、 <u>生産年齢人口が減少し</u> 、地域経済の縮小、税収の減少、	ご意見をふまえ、修正します。
4	P11	I 序論 第3章 計画策定の背景 第1節 本市を取り巻く時代の潮流 第6項 農林業の・・・	林業について、これまで放置されたきたことの改善も重要である。放置林の扱いをどうするか。	・・・人工造林を進めてきましたが、現在は資源の利用期に本格的に移行しています。	・・・人工造林を進めてきた結果、現在は資源の利用期に本格的に移行していますが、 <u>人工林の放置が全国各所で課題となっています。</u>	ご意見の趣旨については、基本計画の中で言及する予定です。ここでは、「時代の潮流」として、客観的事実について言及する修正を行います。
5	P11	I 序論 第3章 計画策定の背景 第1節 本市を取り巻く時代の潮流 第6項 農林業の・・・	農地についても上記と同様(耕作放棄地)。	農業については、国内外の需要の取り込みを進めるとともに、競争力強化を図ることにより、農業の持続的な発展と農村の振興を実現することが必要となっています。	農業については、 <u>農家の高齢化や後継者不足などによる耕作放棄地の増加が課題となっています。</u> 国内外の需要の取り込みを進めるとともに、競争力強化を図ることにより、農業の持続的な発展と農村の振興を実現することが必要となっています。	ご意見の趣旨については、基本計画の中で言及する予定です。ここでは、「時代の潮流」として、客観的事実について言及する修正を行います。
6	P11	I 序論 第3章 計画策定の背景 第1節 本市を取り巻く時代の潮流 第5項 健康寿命の・・・	2027年国民体育大会が長野県で開催予定。スポーツの振興についても計画への位置づけが必要。			ご意見の趣旨である「スポーツの振興」については、基本構想の第3章の施策の大綱で位置付けを行っています。長野県開催の国民体育大会についても、基本計画で言及する予定です。
7	P11	I 序論 第3章 計画策定の背景 第1節 本市を取り巻く時代の潮流 第6項 農林業の・・・	農事組合法人の経営陣の高齢化が進み、新たな担い手の確保が課題。「発展」よりも「維持」が現実的である。			国県の各種施策等でも「持続的発展」という言葉がキーワードとして使われていることから、方針としては同じ言葉で整合を図りたいと考えますので、ご理解をいただきたいと思えます。ご意見の趣旨・考え方については、基本計画の中へ反映していきます。
8	P12	I 序論 第3章 計画策定の背景 第1節 本市を取り巻く時代の潮流 第7項 第4次産業革命・・・	第4次産業革命等により、電子部品産業など地域の既存産業の需要も伸びてくると予想されるため、企業にとってチャンスと捉えたい。既存産業の活性化という視点も加えるべき。	(基本構想 施策の大綱 第4節) IoTやAI、ロボットなど新技術の活用、製造業との融合による省力化効率化された農林業の生産技術の研究を進め、その実用化による新たな産業の育成を支援するとともに、魅力ある産業用地の確保と企業誘致を進めます。	(基本構想 施策の大綱 第4節) IoTやAI、ロボットなど <u>進化する新産業技術の活用は、幅広い分野で生産性を高め、新しい価値訴求を実現し、さらには、従来よりも大きな規模のビジネスモデルを創造できるチャンスでもあります。新技術と既存産業の強みを掛け合わせることで、地域経済の活性化及び地域課題の解決を図ります。</u> <u>また、既存産業や新産業の育成を支援するとともに、魅力ある産業用地の確保と企業誘致に努めます。</u>	ご意見の趣旨をふまえ、基本構想の「施策の大綱」の該当箇所を修正します。(関連意見：整理番号29)
9	P14	I 序論 第3章 計画策定の背景 第1節 本市を取り巻く時代の潮流 第11項 社会資本老朽化・・・	実際に崩落が起こっている箇所もあり、社会資本の老朽化は深刻な問題。優先順位を付けて、実効性のある対応を望む。計画の中で、より具体的に言及してはどうか。			ご意見の趣旨(施策の展開方針)については、基本計画及び個別計画において位置付けていく予定です。
10	P14	I 序論 第3章 計画策定の背景 第1節 本市を取り巻く時代の潮流 第10項 新たな交通・・・	高速道路のナンバリングの表現は必要か?			訪日外国人観光客の増加などに伴い、利用者に分かりやすい道案内のため、2017年から実施されているものです。今後浸透していくものと考えられますので、原案のとおり表示することとします。

第2次伊那市総合計画 基本構想(原案)に対する意見整理表(総合計画審議会)

資料No.1-1

【基本構想】

整理番号	修正前の頁	箇所	意見の概要	修正前	修正後	事務局(担当部局)の考え方
11	P13	I 序論 第3章 計画策定の背景 第1節 本市を取り巻く時代の潮流 第9項 ライフスタイル・・・	「個人の意識や価値観は、これまでの経済的・物質的な豊かさから、精神的なやすらぎや生活の質を重視する方向へと変化しています。」とあるが、個人的にはそう感じていない。			内閣府の「国民生活に関する世論調査」に基づく記述であり、時代の潮流であると考えられますので、原案のとおりとします。
12	P13	I 序論 第3章 計画策定の背景 第1節 本市を取り巻く時代の潮流 第10項 新たな交通・・・	R153バイパス、伊駒アルプスロードの整備も大きな潮流と考えるのでここに言及してはどうか。			ご意見のとおり、幅広い分野への効果が期待される事業であるため、基本構想及び基本計画における施策展開の背景(または、施策そのもの)として位置付けていく予定です。「時代の潮流」における記述は、日本全体を対象とするような、社会的要因・背景を整理したものですので、ご理解をいただきたいと思います。
13	P16	I 序論 第3章 計画策定の背景 第2節 市民アンケート	まちづくりアンケートP11にある「住みたくない」理由は、周りでよく聞く意見である。少数意見といって切り捨てないでほしい。			重要な意見として、基本計画における各施策の展開方針へ反映していく予定です。
14	P21	I 序論 第4章 第1次伊那市総合計画の総括	将来像・キャッチフレーズは重要。南信州＝飯田が定着している。「2つのアルプス～」もよいが、言葉の意味合いを表現したほうがよい。「伊那平」を構成する地域を代表するのであれば、誇りをもって「伊那平」をキャッチフレーズに使うのではないか。			将来像については、別途事務局案を提案します。
15	P10	I 序論 第3章 計画策定の背景 第1節 本市を取り巻く時代の潮流 第2項 地方創生・・・	「近隣自治体との役割分担や連携」も大事であるが、「伊那谷の地域のリーダー」ということも入れてはどうか？	(基本構想-第3章 施策の大綱 -第4節-第4項) 経済や生活の結びつきが強い近隣自治体との連携を深めながら、リニア中央新幹線の整備効果を高めるための広域交通網の整備や新たな交通システムの構築を進め、都市間交流の促進を図ります。 また、地域の活力を維持していくためには、定住人口の増加を図ることが重要な課題となっているため、本市への新しい人の流れをつくるとともに、若い世代へ結婚・出産・子育て支援などを行い、地方創生につながる取組を積極的に推進します。	(基本構想-第3章 施策の大綱 -第4節-第4項) 経済や生活の結びつきが強い近隣自治体との連携を深めながら、リニア中央新幹線の整備効果を高めるための広域交通網の整備や新たな交通システムの構築を進め、都市間交流の促進を図ります。 また、地域の活力を維持していくためには、定住人口の増加を図ることが重要な課題となっているため、本市への新しい人の流れをつくるとともに、若い世代へ結婚・出産・子育て支援などを行い、地方創生につながる取組を積極的に推進します。 <u>さらに、伊那谷のリーダーとして、上伊那広域連合や自治体と連携して、広域連携事業を推進します。</u>	ご意見をふまえ、修正します。
16	P22	II 基本構想 第1章 基本理念	P22「次の世代に引き継ぐ」とP10「子どもたちに引き継ぐ」の表現の違いに意味はあるのか。	子どもたちに引き継ぐ 次代に引き継ぐ	<u>次の世代に引き継ぐ</u>	「次の世代に引き継ぐ」へ統一します。(ご意見をふまえ、P26「次代に引き継ぐ」も同様に修正します)
17	P22	II 基本構想 第1章 基本理念	「協働」という言葉は、一般的でなく分かり難いのではないか。「協働」、「共助」、「共同」の表現の整理を。	・・・「自分たちのまちは自らの手でつくる」という思いに立ち、共助による地域づくりや協働によるまちづくりを進める必要があります。	・・・「自分たちのまちは自らの手でつくる」という思いに立ち、 <u>協働によるまちづくり</u> を進める必要があります。	●巻末に用語解説を掲載します。 ●重複する表現について、整理して修正します。
18	P23	II 基本構想 第2章 将来像	現在の将来像「二つのアルプス～」は表現が硬い。伊那市らしく、みんなが愛着を持てる表現となるように。			ご意見をふまえ、将来像(案)を提案します。
19	P23	II 基本構想 第2章 将来像	基本目標6つ目「快適で潤いのある安全なまちづくり」の「潤い」が抽象的で何を指すのか分からない。誰もが共通のイメージを持つ言葉とすべき。	快適で潤いのある安全なまちづくり	<u>生活基盤の充実した安全で快適に暮らせるまちづくり</u>	ご意見をふまえ、修正します。
20	P23	II 基本構想 第2章 将来像	基本目標5つ目「心豊かな人を育み、歴史と文化を未来へつなぐまちづくり」の目的は「心豊かな人を育む」ことであるので、前後を入れ替えたほうがよい。	心豊かな人を育み、歴史と文化を未来へつなぐまちづくり	<u>歴史と文化を未来へつなぐ、心豊かな人を育むまちづくり</u>	ご意見のとおり修正します。

第2次伊那市総合計画 基本構想(原案)に対する意見整理表(総合計画審議会)

資料No.1-1

【基本構想】

整理番号	修正前の頁	箇所	意見の概要	修正前	修正後	事務局(担当部局)の考え方
21	P23	II 基本構想 第3章 施策の大綱 第1節 市民が主役の・・・	<ul style="list-style-type: none"> ●「市民の満足が得られる市政を推進します。」の表現は行政側のものであり、「協働」ではなくなってしまうので、表現を改めるべき。 ●「市民の声を聞く」だけでは推進力を持たない。行政が市民の声をきとんと捉え、イニシアティブをとり市の運営をけん引していくようなダイナミックさが求められる。 ●「協働」にはいろいろな意味があるので注釈があったほうがよい。 ●「産・官・学」の事例などを紹介し、共有すると理解しやすい。 ●協働の担い手は、市民、企業、地域、行政などがあり、主体が漠然としているので役割分担や権利と責任の部分を整理すべき。 ●役職を頼んでも断られ、受けても嫌々やっている。「市民が主役」とは程遠い。 ●誰も役を受けたくない組織は見直す必要がある。押し付けられるのは嫌⇒行政まかせ。 ●個別計画の一覧を提供してほしい。 	市民が主役の協働のまちづくり まちづくりの原点は「地域」、そして、ここに暮らす私たち「市民」です。まちづくりの主役である「市民」と行政がお互いに責任や役割を分担し、補い合いながら、自信と誇りをもって次の世代に引き継げるようなまちづくりに取り組んでいく必要があります。市民がまちづくりに参画しやすい環境を整えるとともに、地域の課題を、地域で検討し、解決する仕組みを整えることにより、地域の個性を大切にしたい市民が主役の協働のまちづくりを推進します。 また、限られた行政経営資源を最適に配分し、効果的で効率的な行政運営に努めるとともに、市民の満足が得られる市政を推進します。	<p><u>地域の未来を共創する協働のまちづくり</u></p> <p><u>まちづくりの原点は「地域」、そして、ここに暮らす私たち「市民」です。</u></p> <p><u>自信と誇りをもって次の世代に引き継げるまちを創造していくため、市民、団体、事業者、行政等は、互いにその主体性や自立性を尊重しながら、対等の立場で責任や役割を分担し、共通の目標に向かって、まちづくりに取り組んでいく必要があります。</u></p> <p><u>地域の個性を大切に、多様な主体が互いを尊重しながら、協働のまちづくりを推進するとともに、限られた行政経営資源を最適に配分するなど、効果的で効率的な行政運営に努めます。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ご意見をふまえ、修正します。 ●基本計画「協働・市民参画分野」で、各主体に期待される役割分担の例として下記内容を掲載する予定です。 <p>○各主体に期待される役割分担の例</p> <p>【市民・地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの問題は、まず個人や家庭が解決にあたり、個人や家庭で解決できない問題は地域で解決する。 ・自治活動やボランティア活動に対する理解を深め、まちづくりに積極的に参画する。 <p>【事業者等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者としての専門的な知見を活用する。 ・積極的な社会貢献に努め、さまざまな形でまちづくりに参加する。 <p>【行政の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な主体が力を合わせ、効果的な公共サービスを提供できるよう、協働のルールや仕組みを整える。 ・市民に開かれた行政を目指し、積極的にまちづくりに関する情報を公開する。 ・市民が主体となるまちづくりの推進に向けて積極的な支援や援助を行う。
22	P25	II 基本構想 第3章 施策の大綱 第2節 自然と調和した・・・	CO2の削減は、あちらを立てればこちらが立たず。企業サイドからは、現実的な数値目標を落とし込んでいただくことをお願いする。			基本計画において、具体的な数値目標となる「まちづくり指標」を設定します。
23	P26	II 基本構想 第3章 施策の大綱 第3節 子育てを支え、・・・	伊那市を日本一長寿で健康なまちにしたい。市民全員がスポーツに関わり健康でいられるように、地域や団体への行政支援を充実してほしい。			ご意見の趣旨については、第3節「健康長寿のまち」と第5節「スポーツの振興」で言及しています。また、基本計画の中でも、各施策の展開方針に言及していく予定です。行政による支援については、要望として担当部局へつなぎます。
24	P26	II 基本構想 第3章 施策の大綱 第3節 子育てを支え、・・・	「遊びの中から学ぶ保育」とは何か？			伊那市では、「生きる力のある子ども」を保育目標とし、地域の自然環境や保育園内の環境を活かした遊びで、豊かな心と丈夫な体を育むことに取り組んでいます。
25	P27	II 基本構想 第3章 施策の大綱 第4節 地域の個性と・・・	「活力」とは具体的に何を指しているのか。抽象的にならざるを得ないと思うが、ちょっと分かり難い。			●原案のとおり 「活力」が指し示すまちの姿としては、「いきいきとした」、「勢いがある」、「元気いっぱい」、「活気がある」などを表現したものです。 ここでは、どれか一つというよりも、様々なプラス方向の状態を広義にとらえていただきたいと考えます。
26	P27	II 基本構想 第3章 施策の大綱 第4節 地域の個性と・・・	「山・花・食」はこれから観光の柱にしたいということか、それともすでにになっているものを強く、太くしていきたいということか。	さらに、観光の柱となる「山・花・食」など、地域の強みを生かした様々な魅力を発信するとともに、	さらに、観光の柱である「山・花・食」など、地域の強みを生かし、 <u>育みながら</u> 、様々な魅力を発信するとともに、	ご意見をふまえ、修正します。
27	P27	II 基本構想 第3章 施策の大綱 第4節 地域の個性と・・・	「活力」を判断するには、具体的な数値の変化を見て判断することが適切である。			基本計画において、具体的な数値目標となる「まちづくり指標」を設定します。
28	P27	II 基本構想 第3章 施策の大綱 第4節 地域の個性と・・・	ここに住む我々が地域の個性や魅力を的確に表現できるか心配。外から見た伊那市の魅力も表現できるとよい。			外から見た伊那市という視点も踏まえ、計画策定に活かしていきたいと思います。

第2次伊那市総合計画 基本構想(原案)に対する意見整理表(総合計画審議会)

資料No.1-1

【基本構想】

整理番号	修正前の頁	箇所	意見の概要	修正前	修正後	事務局(担当部局)の考え方
29	P28	II 基本構想 第3章 施策の大綱 第4節 地域の個性と・・・ 第1項 活力に満ちた・・・	●「ドローン」や「自動運転」など、先進的に取り組んでいることをキーワードとして加えてはどうか。 ●新産業の創出や新しい工場の誘致だけでなく、既存産業の優遇についても言及すべき。 ●若者のUターン就職だけでなく、地元の求人難と都会の求職者情報を上手くマッチングできる仕組みづくりが重要。	I o TやA I、ロボットなど新技術の活用、製造業との融合による省力化効率化された農林業の生産技術の研究を進め、その実用化による新たな産業の育成を支援するとともに、魅力ある産業用地の確保と企業誘致を進めます。	I o TやA I、ロボットなど進化する新産業技術の活用は、幅広い分野で生産性を高め、新しい価値訴求を実現し、さらには、従来よりも大きな規模のビジネスモデルを創造できるチャンスでもあります。新技術と既存産業の強みを掛け合わせることで、地域経済の活性化及び地域課題の解決を図ります。 また、既存産業や新産業の育成を支援するとともに、魅力ある産業用地の確保と企業誘致に努めます。	●ご意見をふまえ、修正します。 ●既存産業の活性化と新しい産業の創出について、基本計画で言及する予定です。 ●「ドローン」や「自動運転」は、一つの手段であるので、キーワードとしては、基本計画において位置付けることとします。
30	P28	II 基本構想 第3章 施策の大綱 第4節 地域の個性と・・・ 第2項 生活の基盤となる・・・	「若者のUターン就職について事業者と協力」の部分であるが、若者だけではなく、都会に出た後、そろそろ故郷に帰りたいけど職がないという声が多くあると伺っているが、地元企業は求人難で人が確保できないというミスマッチが生じている。地元の求人難と都会の求職者を上手くマッチングできる仕組みの構築が必要。	進学等により地域を離れた若者のUターン就職について事業者と協力して取り組みます。	進学等により地域を離れた若者のUターン就職や、都市部に暮らす潜在的な求職者の就職マッチングに事業者と協力して取り組みます。	ご意見をふまえ、修正します。
31	P28	II 基本構想 第3章 施策の大綱 第4節 地域の個性と・・・	「交流人口の増加」が「定住人口の増加」につながる表現があってもよい。行政組織の事務分掌が異なるかもしれないが、この二つは連携した一体のものとして表現も取り扱ってほしい。			P29下段にご意見と同様の記載をしています。ここでは、交流人口の増加⇒定住人口の増加へつなげていく一つのきっかけとして、観光に主眼を置いた書きぶりですが、広い意味ではご意見の趣旨と同様に考えているということでご理解いただきたいと思います。
32	P29	II 基本構想 第3章 施策の大綱 第4節 地域の個性と・・・ 第3項 おもてなしの・・・	八代亜紀さんが、伊那市の風景は「色がすごい」と驚かされていた。「春夏秋冬 色と食があるまち」は伊那市のキャッチフレーズとしても使える。			将来像については、別途事務局案を提案します。
33	P29	II 基本構想 第3章 施策の大綱 第4節 地域の個性と・・・ 第3項 おもてなしの・・・	「二つのアルプス」「天下第一の桜」のワードは、すでに定着しているが、いろいろと課題がある。今回のキャッチフレーズは、これによらずもう一度よく考え直すべき。 一番効果を上げていて要望も多いのが「農家民泊」であるが、現場は様々な矛盾が入り混じっている。 第4節第3項のリード文の再検討を。	3 おもてなしの心による賑わいの創出と魅力発信 二つのアルプスや天下第一の桜をはじめとする四季折々に見られる魅力的な風景や伝統と特色のある食文化は伊那市最大のブランドです。伊那市の魅力を市内外に向けて発信する効果的なシティプロモーションにより、知名度や認知度を上げるとともに農家民泊を中心に滞在型の観光誘客を図ります。 また、滞在型の観光に欠かすことのできない「おもてなしの心」の醸成により交流人口の増加を図ること、将来的な定住人口の増加を図ります。	●原案のとおり。 「二つのアルプス」、「天下第一の桜」は、本市の観光施策を語る上で、外すことのできない重要なワードであると考えます。また、「滞在型の観光誘客による交流人口増加」の一つの手法として、農家民泊を例示していますが、「農家民泊」と「グリーンツーリズム」は、どちらも農山村にゆったりと滞在し、地域の人と触れ合いながら、その地の生活を体験するというスタイルに明確な違いはなく、ご意見の趣旨と方向性の相違はないものと考えていますので、原案の内容にてご理解いただきたいと思います。	
34	P31	II 基本構想 第3章 施策の大綱 第5節 心豊かな人を育み・・・ 第1項 地域への・・・	「はじめに子どもありきの教育理念のもと」を追加	児童生徒が自ら生きる力を育むために、郷土の教育資源を活かした食育やキャリア教育をはじめ、	児童生徒が自ら生きる力を育むために、「はじめに子どもありき」の教育理念のもと、郷土の教育資源を活かした食育やキャリア教育をはじめ、	ご意見のとおり修正します。
35	P31	II 基本構想 第3章 施策の大綱 第5節 心豊かな人を育み・・・ 第2項 生涯にわたる・・・	「東京藝術大学」を追加	信州大学を始めとする	信州大学や東京藝術大学を始めとする	ご意見のとおり修正します。
36	P31	II 基本構想 第3章 施策の大綱 第5節 心豊かな人を育み・・・	●教育現場の教員のやる気を引き出させるような教育実践を計画・施策に入れてほしい。進徳館の教育を参考に。少子高齢化を逆手に取った伊那市に特化した教育理念を。 ●高校教育についても考える必要あり。スポーツ推薦等による圏外への高校生の流出。魅力ある高校教育の視点も重要。 ●「人間性に満ちた人づくり」高遠町ではすでに実践し、評価をいただいている。主役になれる人づくりの答え。成人後も心豊かになれる教育も必要。			重要な意見として、基本計画の中へ反映していきます。
37	P32	II 基本構想 第3章 施策の大綱 第6節 快適で潤いのある・・・	「コンパクトシティ」について、政策的に推進しない方向のもとにつくられた原案ということによるのか。コンパクトシティの考え方は、郊外に暮らす者にとって不安を感じる政策であるので、推進しないという方向性の記載が市民に安心感を与えるのではないのか。			現時点では、郊外を切り捨てるようなコンパクトシティ施策の展開は考えておりません。 関連する計画としては、都市計画マスタープランや立地適正化計画において位置付けていく予定です。

第2次伊那市総合計画 基本構想(原案)に対する意見整理表(総合計画審議会)

資料No.1-1

【基本構想】

整理番号	修正前の頁	箇所	意見の概要	修正前	修正後	事務局(担当部局)の考え方
38	—	全般	今後出てくるかもしれないが、施策に関する担当部門を明記していただきたい。(官か、民か、もあると思うが)			付属資料として、「個別計画一覧」により、関連する個別計画の担当課を掲載する予定です。
39	P35	Ⅱ 基本構想 第4章 土地利用構想	方針はOK。集積できない背景として相続できない塩漬け土地の問題あり。法制化進み期待している。土地所有者の義務についても積極的に訴えていく必要あり。			重要な意見として、土地利用計画の中へ反映していきます。
40	P35	Ⅱ 基本構想 第4章 土地利用構想	●工業用地拡張などにおいて、農地法の規制の弾力運用も必要。 ●小さな頃から農業に親しむ教育も重要。			重要な意見として、基本計画及び土地利用計画の中へ反映していきます。
41	—	I 序論 第3章 計画策定の背景 第1節 本市を取り巻く時代の潮流	伊那市を訪れる外国人観光客多い。伊那市の一つのアピールポイントになる。インバウンドの増加についても触れておくほうがよいのではないか。		<p><u>9 グローバル化の進展</u> <u>情報通信技術や輸送、交通手段の発達により、多種多様な分野においてグローバル化が急速に進み、人・モノ・資金・情報などの国境を越えた移動が急速に拡大しています。個人や企業の活動は国内に止まらず、国際社会全体へと広がりを見せており、また逆に国際社会で起こる様々な事柄が私たちの日常に直接影響を与えるようになっています。</u> <u>こうしたグローバル化の進展は、特に経済面で著しい傾向を見せ、激しい国際競争による産業の空洞化などの影響も懸念される一方で、訪日外国人観光客(インバウンド)による日本国内での消費は好調な見通しであり、大きな経済効果が期待されています。</u> <u>また、労働力不足が課題となっている業界においては、外国人労働者の積極的な受け入れが始まっていますが、異なる文化の人々が互いの文化的違いや価値感を尊重し、新たな関係性を創造する多文化共生社会の構築が求められています。</u></p>	<p>●国際化の進展について、「I 序論—第3章 計画策定の背景—第1節 本市を取り巻く時代の潮流」へ新たな項を設けます。 ●「インバウンドの増加」は、基本計画の観光分野における施策展開の背景としても掲載する予定です。</p>